

令和6年度第1回江別市地球温暖化対策実行計画推進協議会会議録(要旨)

とき	令和6年8月23日(金)午前9時30分～午後12時15分	
ところ	酪農学園大学 本館4階 第2会議室	
出席者等	委員	【13名】 吉田磨委員、高見潤委員、坂口浩昭委員、渡邊工委員(代理)、坂本憲昭委員、松野和司委員、干野里佳委員、安倍隆委員、星智子委員、岡崎朱実委員、後木一哉委員、海保富江委員、村田和陽委員 ※三上康隆委員、川口谷仁委員、佐々木尚弘委員は欠席
	事務局	【9名】 後藤市長、近藤生活環境部長、千葉生活環境部次長、谷口環境室長、鈴木環境課長、辻屋環境保全係長、松橋脱炭素・環境計画推進担当主査、丹羽脱炭素・環境計画推進担当主査、西尾環境保全係主事
	傍聴者	【1名】
※協議会開催に併せて、開会の前に垂直型太陽光発電設備の現地見学を実施		
1. 委嘱状交付	市長から委嘱状を交付	
2. 市長挨拶		
3. 開会宣言		
丹羽主査	<p>それでは、これより令和6年度第1回江別市地球温暖化対策実行計画推進協議会を開催いたします。</p> <p>本日の委員の皆様の出席状況ではありますが、15名中、13名の出席ですので、江別市地球温暖化対策実行計画推進協議会設置要綱の第5条第2項の規定を満たしており、本審議会が成立していることをご報告いたします。</p>	
4. 参加者の紹介		
5. 傍聴者の説明・入室		
丹羽主査	<p>ここで、協議会の公開につきまして、ご説明します。</p> <p>江別市では、審議会等は、支障のない限り公開を原則としております。この協議会でも傍聴者を認めており、本日も傍聴希望の方がいらっしゃいます。</p> <p>また、会議の議事の概要として、発言内容を発言者の氏名とともに市のホームページ等で公開いたしますのでご了承願います。</p> <p>なお、傍聴者が議事に支障となるような行為を行った場合は、会長の判断で退席させることができます。</p> <p>本日、1人の傍聴希望者が待機しております。入場いただいて、これ以降の議事を傍聴していただくと考えておりますので、よろしく願いいたします。</p> <p>吉田会長、よろしいでしょうか。</p>	
吉田会長	(了承)	
(傍聴者入室)		
6. 議事		
丹羽主査	<p>それでは、これから議事に入りますが、協議会の設置要綱第4条第2項で学識経験者の方を会長としておりますことから、ここからは、会長の吉田教授に進めていただきたいと思っております。</p> <p>吉田教授、よろしく願いいたします。</p>	
吉田会長	<p>それでは、これ以降、私が会長を務めさせていただきます。</p> <p>本日の議事(1)の『副会長の選出等について』を、事務局から説明をお願いします。</p>	
丹羽主査	<p>まず初めに、この協議会についてご説明させていただきます。</p> <p>本日の次第をめぐっていただくと協議会の設置要綱がございます。</p> <p>その第1条の趣旨の中に、地域における産業部門及び民生部門における温室効果ガスの排出量を削減するために必要となる事項を協議し、市における地球温暖化対策に資する取組を推進するため、とあり、本協議会を設置したところであります。</p>	

	<p>本年3月に、地球温暖化対策実行計画(区域施策編)を皆様のご協力のもと策定しましたが、計画を策定して終わりではなく、市域全体の施策を、実効性のあるものとしてどのように推進していくかを、年に2回程度の協議会の開催により、民間事業者や関係団体、市民の皆様方と一緒に考えていきたいと思っております。</p> <p>次に、本協議会の副会長の選任ですが、協議会の設置要綱第4条第3項で、「副会長は、委員の互選により定める。」とありますことから、皆さま委員の互選により決定していただきたいと存じます。</p> <p>よろしくお願いいたします。</p>
吉田会長	<p>ただいま、説明いただきましたが、互選するとしても時間がかかってしまいますので、事務局から何か案がありますでしょうか。</p>
丹羽主査	<p>事務局案といたしましては、平成20年2月から、地元江別で活動をしている「えべつ地球温暖化対策地域協議会」の会長でいらっしゃる安倍様を副会長としてご提案いたします。</p>
吉田会長	<p>ただいま、事務局よりご提案いただきましたが、地元で実績のある安倍様に副会長になっていただきたいということですが、皆さまいかがでしょうか。</p>
委員一同	(了承)
吉田会長	では、安倍様からひと言いただきたいと思えます。
安倍副会長	(挨拶)
吉田会長	次に、議事(2)の報告事項のA『江別市地球温暖化対策実行計画について』を、村田委員から説明をお願いします。
村田委員	<p>私から、江別市の「地球温暖化対策実行計画」についてご説明いたします。</p> <p>初めにこちらの厚い冊子、区域施策編をご用意いたします。お手元がない方は、挙手をお願いいたします。</p> <p>区域施策編は、江別市全体を対象とした温暖化対策の実行計画で、令和6年度から10年間で期間として作成し、中間年で見直しを考えています。皆さまの委嘱期間が令和10年度末となっているのは、中間年の見直しを見据えて設定したものでございます。</p> <p>20ページをお開き願います。</p> <p>今回の計画は、環境管理計画の見直しに併せて、統合する形で温暖化対策実行計画を新規に策定しております。この中で、地球温暖化対策に深く関係する部分は、1 地球環境、2 資源循環、そして、5 参加協働の部分になりますが、それ以外についてもまったく関係がないわけではございません。</p> <p>続いて、29ページをお開き願います。</p> <p>29ページでは江別市の温室効果ガス排出量の現状と課題について記載し、下の円グラフにありますとおり、江別市における温室効果ガスの部門別排出量では、家庭部門と業務部門を合わせて約50%となっております。全国と比較しまして、家庭部門からの割合が大きいのは、冬季の暖房の影響でございます。まずは、これらの部分の温室効果ガスの削減に努めていくことが重要と考えております。</p> <p>続いて、34ページをお開き願います。</p> <p>34ページからは、今後10年の環境目標と施策について記載しています。今後の協議会での協議内容に深く関わってくる部分でございます。専門用語が多数出てまいりますので、なるべくコラムやページ下段の用語解説という形で説明を加えています。</p> <p>35ページでは、施策1として「事務事業における脱炭素の率先実行」を掲げています。</p> <p>37ページでは、施策2として「家庭への脱炭素化の普及促進」について記載しており、39ページでは、施策3として「事業者の脱炭素経営の促進」を掲げ、また、施策4としまして、「再生可能エネルギーの導入拡大に向けたモデル構築」を掲げています。</p> <p>40ページでは、施策5としまして、「地域と共生した再生可能エネルギーの促進」を掲げ、また、施策6としまして、「脱炭素まちづくりの推進」について記載しています。</p> <p>41ページからは、「市民の取組」を、また、43ページからは、「事業者の取組」について記載しています。</p>

	<p>44ページの中段の「(5)成果指標」につきましては、本計画の上位計画である、「第7次江別市総合計画」の「未来戦略」に合わせて設定してあります。</p> <p>また、隣の45ページでは、国で目指している温室効果ガスの削減目標に合わせた市の削減目標を定め、2030年度には、2013年度比で48%の削減を目指そうとするものであります。</p> <p>47ページからの環境目標「2 資源循環」以降は、説明を割愛させていただきますので、お時間のある時にお読みいただくと幸いです。</p> <p>次に、薄い方の冊子、「第4期江別市地球温暖化対策実行計画(事務事業編)」をご用意願います。行政が率先して温暖化対策に取り組まなければなりませんので、事務事業編についてもご説明いたします。本協議会の前身である策定協議会に参加された委員の方も、初めてご覧になるのではないかと思います。</p> <p>事務事業編は、「地球温暖化対策の推進に関する法律」の第21条第1項の規定に基づき、地方公共団体が策定しなければならない計画でありまして、第3期の実行計画の期間終了に伴い、市内の一つの事業所としての江別市での事務事業における温室効果ガスの排出量の削減を進めるために策定したものであります。</p> <p>こちらの計画も、区域施策編と整合を図り、計画期間を10年とし、中間年で必要に応じて見直すこととしています。</p> <p>まず、8ページをお開き願います。</p> <p>前計画の目標達成状況の評価であります。平成30年度と比較し、5年で5%の温室効果ガスの排出量削減を目指していましたが、令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症の流行に伴う巣ごもり需要により、プラスチックごみの焼却などによる、非エネルギー起源の二酸化炭素の排出量が多くなったことにより、目標達成には至っていない状況です。</p> <p>次に、11ページをお開き願います。</p> <p>令和4年度実績に基づく、二酸化炭素排出量の上位30施設について掲載しており、市における排出量全体の約8割を占めております。今後、これらの施設に対して、二酸化炭素排出量削減の取組を急いで実施しなければならないと考えております。</p> <p>次に、14ページをお開き願います。</p> <p>「温室効果ガスの削減目標」ですが、政府の事務事業編に相当する「政府実行計画」の削減目標を踏まえ、平成25年度比で令和15年度までに50%の削減を目標としております。</p> <p>次に17ページをお開き願います。</p> <p>27ページから24ページまでは、市役所内での具体的な取組内容について記載しております。</p> <p>時間の都合上、計画について簡単にご説明させていただきました。以上でございます。</p>
吉田会長	今の村田委員から説明について、質問等はございますか。
岡崎委員	<p>本協議会は年2回程度開催されるとの説明でしたが、今回の内容は策定した計画の概要と委員さんの環境に対する取組事例の紹介という形になるのでしょうか。</p> <p>また、市域全体の施策について皆さんと考えていくという話を最初にされていましたが、本日の内容と残り一回の開催だけではあまりピンとこないの、今後のスケジュール感や、本協議会の狙いについてももう少し具体的に教えていただければと思います。</p>
丹羽主査	<p>本日は、第1回協議会ということで皆様の顔合わせが主となっており、委員になっただけの方々がどのような取組をしているのかをご紹介いただき、今後計画を推進していく中で、それらの取組を活かしたいと考えております。</p> <p>今後の進め方ですが、協議会につきましては、今年度中にもう一度開催したいと考えております。そこでは、策定した目標の進捗状況などを確認しながら、計画をどのように推進していくことができたのかを皆さんの中で協議いただき、計画推進を加速化できればと考えております。</p>
岡崎委員	次回の会議はいつ頃を予定されていますか。
丹羽主査	秋から冬頃に施策の進捗状況がまとまってくると思いますので、その辺りの時期に

	開催を予定しております。
岡崎委員	今日の会議の内容としては、皆様がそれぞれどのような取組をしているかを把握し、繋がりができればということと、取組に関し、市で協力できそうなことを知るといような理解でよろしいでしょうか。
丹羽主査	そのとおりでございます。
吉田会長	ありがとうございました。 他にいかがでしょうか。
委員一同	(なし)
吉田会長	<p>次に、議事(2)の報告事項の「イ」ですが、本日は、協議会の第1回目で顔合わせということですので、各企業や環境団体の皆さま、個人の方々と、地球温暖化対策について何か取り組んでいらっしゃるがありましたら、アピールを兼ねて、この場でご紹介いただきたいと思っております。</p> <p>時間に限りがありますので、可能であれば8分以内でよろしく願いいたします。</p> <p>配布する資料がありましたら、発表の前に事務局から配布をお願いいたします。</p> <p>それでは、まずは私からご紹介させていただきます。</p> <p>お手元に牛柄の不織布のバッグをご用意しました。その中に『RAKUNO GAKUEN UNIVERCITY GUIDEBOOK 2025』という冊子と、牛柄のファイルがございます。</p> <p>本日は暑い中、長い距離をたくさん歩いていただきありがとうございました。</p> <p>それでは、こちらのガイドブックに従いまして、酪農学園大学を紹介させていただきたいと思っております。</p> <p>1ページ、2ページをお開きください。</p> <p>2ページ上の写真ですが、ボートに乗っている二人の学生は、私の研究室の学生です。このように、様々なフィールドに出かけ、現場の流域生態系の観測や、地球温暖化に関わる物質がどのぐらい出ているか、その原因は何か、そしてそれをどうしたらいいのかということを研究で進めております。</p> <p>3ページ、4ページをお開きください。</p> <p>「のぞいて発見！酪農学園大学 LIFE」ということで、酪農学園大学は牛のイメージしか思い浮かばないかもしれませんが、このように様々な研究・教育に取り組んでおります。</p> <p>5ページ、6ページをご覧ください。</p> <p>札幌から近いということに記載していますが、本学は45%程度が道内の出身学生で、55%程度が道外の出身学生です。おかげさまで、47都道府県全てから来ていただいております。</p> <p>そういった中で酪農学園大学を紹介すると、江別という場所に残念ながらピンとこない道外の人が多い状況です。</p> <p>そのため、札幌からこのぐらいの距離ですよ、という形で江別を理解していただくということから始まっております。</p> <p>また、A-5ランクの肉用牛の育成や、動物医療センターでは年間約 45,000 件の診療を実施しております。こちらは日本でトップでございます。</p> <p>他にも、江別市のふるさと納税の返礼品として、本学の実習で作ったアイスやチーズ、バターなどを出しており、大変喜ばれております。</p> <p>13ページ、14ページをご覧ください。</p> <p>今いる所が、ちょうど見開きの真ん中辺りにある本館というところですよ。こちらはまだ垂直型太陽光パネルが設置される前の航空写真ですが、右下にあるバス停の近くに設置されたパネルを見ていただきました。</p> <p>敷地の真ん中辺り、東西に走っている道路が一番長いところで2キロメートルあり、1周すると6キロメートルあります。高校生には、毎日1周すると、1週間でフルマラソンぐらいの距離になるという話をしております。</p> <p>敷地面積は 135 ヘクタールあり、東京ドーム28個分相当のキャンパスで、のびのびと教育を受けることが出来ます。裏には、キャンパスの15倍ぐらいの面積がある野幌森林公園が広がっており、道外の人にとっては非常に良いなと思っていただけ</p>

る環境ではないかと思えます。

次に37ページをご覧ください。

本学は、黒澤西蔵先生が開設した北海道酪農義塾から始まりました。雪印を作ったのも黒澤先生でございますので、雪印と本学は兄弟姉妹関係にあります。創立から今年で91年目ですが、創立当初から循環の営農が建学精神の中に組み込まれております。昨今、循環型社会と言われておりますが、91年前からこの考え方を基に取り組んでいるところが、本学の特徴でございます。

39ページをご覧ください。

学部・学科を 2011 年に廃止し、学群・学類ということで、他の分野との垣根をできるだけ低くしております。私は環境共生学類の教員ですが、食と健康学類、獣医学類、循環農学類、獣医保健看護学類、全ての垣根をできるだけ低くする形で、幅広い学び、そして「生きるを学ぶ。学びが生きる。」というテーマで協力しております。

61ページに、私の所属する環境共生学類の紹介がございます。今、新聞等でも報道されておりますが、新学類設立ということで、データサイエンス系・情報系を分離させる形で作ろうと頑張っております。

環境共生学類には、ドローンや人工衛星を使った観測や、野生動物専門のコース、地球環境全体をとり巻くコースがあり、63ページに説明がございます。私の研究室は生命環境学コースに特化しており、野生動物だけではなくその周りの環境ということで、地球温暖化も含め、フィールド観測によって環境を明らかにしていくという研究をしております。

次に、本協議会が終わりましたら、本学の学食をぜひ体験していただければということで、92ページをご覧ください。

様々な施設が紹介されていますが、右上の酪農学園ホール(学園生協)をご覧ください。私は学園生協の理事長にもなっておりますが、全国に大学が 800 程度ある中で、110 しか大学生協はありません。大学全体の4分の1です。

ここに購買や書店、ルームガイド店やサービス店、食堂もございます。食堂はカフェテリア方式で、トレーを持って好きなものを選び、最後にレジでお金を精算します。

また、私が今つけている職員証ですが、これを使った電子マネー決済ができます。学生も学生証や、スマートフォンのアプリでバーコード決済による買い物もできます。

ここまでざっくりと大学の説明をさせていただきました。こちらのガイドブックは全98ページありますので、後程ご覧いただければと思えます。

最後になりますが、現在、学園として脱炭素・カーボンニュートラルに取り組もうとしております。

現在、学園の中には大学と高校が一つずつありますが、二つを合わせて学園としてどのような取組をしていくかということで、計画を練っている段階でございます。

また、プロジェクトチームを作るということも決まっており、今のところ私がプロジェクトリーダーになる予定でございます。

江別市の様々な協議会や実行計画とも歩調を合わせながら、学園として、2030年、2050年に向けてどのように炭素を減らしていき、カーボンニュートラルに近づいていくか、サステナブルな世の中にするかということを考えてこれからまさに行動しようというところ です。今後この会議の中でご紹介させていただければと思えますので、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

それでは次に、旭川ガスさんから、委員一覧の順番に、皆さまの取組をご紹介していただきたいと思えます。

高見委員

旭川ガスの高見と申します。

日頃から、旭川ガスの天然ガスを使っただきありがとうございます。本日は貴重なお時間をいただきまして、私どもの地球温暖化防止への取組についてご紹介させていただきます。微力ではありますが、脱炭素に向け、また江別の魅力あるまちづくりに貢献できるよう、できることを精一杯やらせていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

お手元にA4の資料を用意いたしました。かいつまんでご説明をさせていただきます。

脱炭素社会の実現に向けたガス業界の取組ということで、ガス業界全体と家庭部門での省エネ、CO2削減の取組を簡単に紹介させていただきます。

取組紹介の前に、会社の概要を説明いたします。1枚目の資料の左下からご覧ください。

創立が昭和8年ということで、先ほどの酪農学園大学さんと同じく今年で創立91年となります。

供給地区は旭川が基本ですが、江別にも供給しております。エネルギーの種類は、天然ガス、LPG、灯油となっております。

その他トピックスとして、現在近隣の自治体の皆様と包括連携協定を締結しております。旭川市を皮切りに、直近では当麻町と協定を結びました。現在は、江別市とも何か協力できることはないか協議を重ねている最中でございます。

写真ですが、上は旭川本社、下は江別支社ということで事務所を構えております。右のスライドは、江別支社をピックアップした写真です。2番通沿いに3年前に建設させていただき、1階にはローソンさんが入っております。こちらの建物については別にオーナーさんがおり、私達は2階に事務所を構えております。

設備については、資料に専門的に書いてありますが、地震に強い中圧の特殊なガス管を入れており、災害時にも供給可能で、社内の電力も賄えるような設備を整えております。

次のページをご覧ください。脱炭素社会に向けたガス業界の動向についてご説明させていただきます。

旭川ガスが脱炭素に向けてできることですが、北海道は暖房などの熱需要が多く、そこでのCO2削減が脱炭素、環境に直結します。私たちは、この分野において、脱炭素社会に向けた様々な取組をしております。

隣のスライドをご覧ください。少し難しい話になりますが、メタネーションということで、今のガス協会の動きとしては、企業から排出されたCO2と自然由来の水素を合わせて合成メタン、Eメタンを作り出し、それを利用するというような開発を進めております。

水素をどのようにつくるかという点がまた問題になると思われませんが、2030年にはメタネーションの実装化ということで合成メタンの導管投入1%を目指して取組を進めております。

次に家庭部門での省エネ・CO2削減の取組ということで、ここでは弊社で取り扱っている商材を紹介させていただきます。

3枚目の資料右上のスライドをご覧ください。

省エネ型ガス給湯暖房機のエコジョーズですが、こちらを主力商品として販売しております。従来の給湯器との違いとしては、熱効率があります。

従来型ですと、使ったエネルギーの80%しか回収できませんが、エコジョーズは約95%回収できます。

次のスライドに、エコジョーズの契約数のグラフがございます。江別市内では、2024年3月時点で約4,000件となっており、1年間で300件程度伸びている状況です。ちなみに旭川での契約数は約17,000件となっております。

その下のグラフは、年間のエコジョーズへの燃料転換件数です。こちらは主に石油暖房機からエコジョーズに変えていただいたお客様の件数となっており、2023年度では112件、その前は100件となっております。

旭川でも同じような取組をしておりますが、件数としては約120件と、規模的には江別市と同じくらい採用いただいております。

	<p>CO2 の排出量については、石油セントラルと比べ、天然ガスをお使いいただくことで 2.1 トン削減できます。</p> <p>次のスライドですが、コレモという商品がございます。こちらは北海道ガスさんで CM を出しております。写真は機器単体で載せておりますが、家の外に設置されていることが多いです。</p> <p>こちらは 2011 年から発売されており、4 機目のモデルチェンジを経て、2022 年に新機種を発売しております。</p> <p>次のスライドに設置台数推移がございますが、高額な点もあり最近では販売に苦戦しております。昨年度の台数としては、旭川では 111 台、江別では 27 台採用いただきました。こちらについては、今後より大きく取り組んでいきたいと考えております。</p> <p>次のスライドに、コレモの仕組みがございます。こちらの図は先ほど説明したエコジョーズとコレモがセットになっているものです。</p> <p>エコジョーズの運転スイッチを入れると、コレモも連動してガスエンジンが動きます。エンジンが動くことで発生する廃熱はエコジョーズで回収し、その熱は温水を回すエネルギーとして再利用します。</p> <p>また、エンジンが回ることによって発電し、その電気は家庭内に供給されます。基本的にこのエンジンは負荷追従なので、使った CO2 に応じて発電していく形になります。余剰電力については、買い取りという形で運用しております。</p> <p>なお、費用については 130 万円程になってしまい、この辺りがネックとなっております。</p> <p>最後に、弊社の広告の一部を紹介いたします。エコジョーズについてこのように販売させていただいております。補助金などを活用しながら、機器の下取りをご提案させていただいております。</p> <p>簡単ですが、以上で私の説明を終わらせていただきます。</p>
坂口委員	<p>王子グリーンエナジー江別の坂口と申します。よろしくお願いたします。</p> <p>お配りしたパンフレットをご用意ください。なお、こちらは王子グリーンエナジーのホームページでもご覧いただけます。</p> <p>1 ページをお開きください。</p> <p>まず初めに当社の自己紹介ということで、「資源と自然を、未来へ繋げる」をモットーにやらせていただいております。</p> <p>次に 2 ページをご覧ください。</p> <p>「バイオマス燃料はカーボンニュートラル。環境にやさしい燃料です」と記載しておりますが、考え方としては、木が成長する際に取り込む CO2 の量と発電の際にチップを燃やすということで発生する CO2 の量が等しいということで、これをカーボンニュートラルとしております。</p> <p>下の方には「王子グループが保有しているインフラや技術を有効活用しています」と記載しております。</p> <p>当社は王子グリーンエナジー江別という社名ですが、親会社は王子ホールディングスとなります。</p> <p>その中でも有名なものが王子製紙という会社ですが、その製紙工場の中に発電設備が造られております。道内では苫小牧工場と釧路工場、そして王子エフテックス江別工場で作紙しており、その敷地内にあるインフラ、操業技術、燃料集荷を利用して発電をしております。</p> <p>3 ページをお開き下さい。実際の発電業務についてご説明いたします。</p> <p>発電規模は年間約 1.8 億 kWh で、一般家庭の約 6 万世帯の電気を供給しています。7 月 1 日現在の江別市の世帯数が約 5 万 9 千世帯となりますので、こちらの発電所 1 基で、江別市の住宅を全てカバーできる発電を行っているというイメージです。</p> <p>写真では制御パネルや各設備を紹介しております。</p> <p>こちらの発電設備は、5 月と 11 月に約 1 週間点検のため設備を停止しますがそれ以外は 24 時間 365 日操業しております。</p> <p>操業員が 4 組 3 交代の計 12 名、そのほかに私を含め補佐する職員が 6 名、計 18 名の作業体制で行っております。</p> <p>4 ページの図をご覧ください。</p>

	<p>後ほど説明しますが、木質燃料と PKS(パーム椰子殻)を燃料にボイラー内で燃焼させます。そして燃焼により発生した熱で水管の中にある水を蒸気に変え、その蒸気でタービンをまわして発電します。燃えたガスは、バグフィルターを通ることによりガスと燃焼灰に分離され、使わない排気は排気塔から放出されます。燃料灰や排ガスに含まれる灰については、回収して有効活用しております。資料にはリサイクルと書いていますが、実際には苫小牧の業者さんに引き取られ、路盤材やセメントに使われています。</p> <p>次に、工場の全体図をご覧ください。チップを荷下ろしするトラックダンパー、燃料チップを保管するチップヤードやPKSヤードがございます。集められた木質チップとPKSは、④の循環流動層ボイラーで燃やされます。⑤の写真は、ボイラーの燃焼状況を見るところとなります。そして⑥の蒸気タービンで発電をしております。</p> <p>最後に5ページをご覧ください。</p> <p>燃料ですが、これまで廃棄されていた資源を無駄なく活用していますということで、木質チップとPKSの説明がございます。</p> <p>中段の図にありますように、チップの原料は国内材です。王子グリーンエナジー江別では、全て北海道内の木材を使用しております。製材向けの丸太から出る廃材や、山を維持するために切られた間伐材、製品を出す際に枝打ちされた林地残材をその場でチップにして、そこから工場に持ってきています。</p> <p>パーム椰子殻ですが、パーム油の残りかすである殻の部分です。椰子殻はマレーシアとインドネシアから船で八戸の発電所に運び、江別で使っているものはさらにそこからマイクロ船で輸送されます。</p> <p>このように、燃料のために木を育てているわけではなく、今まで使われていなかった木材や、捨てられるはずだったPKSを使って発電をしているという点をご理解いただければと思います。</p> <p>以上です。</p>
渡邊委員(代理)	<p>Kalm角山の渡邊と申します。</p> <p>本来ならば社長の川口谷が出席するところですが、今年の4月からサツラク農業協同組合の専務理事となりました。そのため本会議に参加できないことが多く、私が代理出席という形を取らせていただきますが、よろしく願いいたします。</p> <p>当社では、バイオガス発電の事業を行っております。こちらについては後ほどご説明したいと思います。</p> <p>地球温暖化は、牛を飼っている当社は一番影響を受けるのではないかと考えておりますし、非常に危機感を抱いております。</p> <p>当社の牛から搾った生乳は、サツラク農業協同組合に卸されています。</p> <p>牛は寒さには強いですが、暑さには非常に弱いです。そのため夏場になると、牛1頭あたり、平均すると1日2キロから3キロ程度生乳の量が落ちてしまいます。牛乳パックに換算すると、2本から3本ぐらいです。</p> <p>また、出荷量は1日約1万7千キロとなっておりますが、ここにも影響が出てきてしまいます。</p> <p>さらに、作物も温暖化の影響を大きく受けます。当社は、牛のエサについて自給で行っています。牧草は、気候が暖かいほうが良いのではないかと恐れがちですが、決してそうではなく、暑すぎると成熟する前にのびてしまい、品質が悪くなったり収穫量が落ちたりしてしまいます。</p> <p>以上のことを踏まえ、ここからは当社の概要と、環境への取組について説明したいと思います。</p> <p>当社はちょうど10年前に、サツラク農業協同組合の組合員5名が共同で立ち上げました。社名にもある「kalm」には、「穏やかな」という意味があります。</p> <p>社員は先ほどお話ししたサツラクの組合員5名のほかに、グループ全体の従業員として日本人が15名、外国人が8名おり、この23名で、実際の搾乳事業を行っております。</p> <p>また、関連会社として「北のオーガニックファーム」という会社があり、もう一つ牧場を持っています。こちらはコストコで売られているオーガニック牛乳を製造しています。ちなみにコストコのオーガニック牛乳はここでしか製造しておりません。</p>

	<p>事業規模ですが、畑は約5ヘクタールあり、札幌ドーム一つ分に相当します。この畑で牧草、デントコーン事業を行っています。会社を立ち上げた当時は16億5,000万円の設備投資をしましたが、補助金は3分の1程度でした。</p> <p>飼養飼い相当数は約1,000頭で、1日約500頭の牛から牛乳を搾っています。昨年の出荷乳量は約6,800トンで、全国に約1万1千件の酪農家のうち70番目ぐらいになります。道内においては、約4,000件ある酪農家のうち40番目ぐらいの規模です。</p> <p>当社の特徴的な設備として、自動搾乳ロボットがあります。当時ロボットを8台導入しましたが、日本及びアジアでは第1号ということで、完成から半年間で約2,400名の方が見学にいらっしたそうです。</p> <p>当社の環境への取組ですが、循環型農業ということで、冒頭でお話したバイオガスプラントがあります。酪農の業務の一つにふん尿の処理がありますが、ここで臭いの問題が発生します。この問題を解決するため、排泄物の処理方法としてバイオガスプラント事業を始めました。仕組みとしては、牛のふん尿を発酵させ、発生したガスから電気を作ります。残った消化液は固形物と液体に分離され、固形物はもどし堆肥として敷地内で再利用されます。液体については液体肥料として畑にまいていますが、冬は雪が降るので畑にまききることが出来ません。そこで3年前に、液体を国の基準値まで浄化して河川放流するシステムをスタートしました。このシステムは国内初ということで、今現在も稼働しております。</p> <p>もう一つ特徴的な取組として、敷き藁に北海道コカコーラボトリングさんのコーヒーかすを利用しています。コーヒーかすはふん尿と混ざることによって、バイオガスのエネルギーとして活用できます。これまでコーヒーかすは産業廃棄物として処理されていたので、再利用することでゴミの量も減らせるということになります。</p> <p>このように、当社では出来るだけ廃棄物を外に出さないよう、自分たちの敷地内で再利用、もしくは処理する形をとっております。</p> <p>最後になりますが、当社はHACCP認証とJGAP認証を取得しています。安全安心ということを提案しながら、地球温暖化に対してどれくらい力を貸せるかを考え、出来ることをクリーンな形で進めていきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。</p>
<p>坂本委員</p>	<p>北海道銀行の坂本です。よろしく申し上げます。</p> <p>本日は、野幌支店が管轄として行っていることについてお話ししたいと思います。</p> <p>資料の2ページをお開き下さい。なお、資料にはほくほくフィナンシャルグループの取組と記載がありますが、当行でも同様の取組をしておりますので、内容は北海道銀行の取組としてご覧ください。</p> <p>2023年4月から、当行の頭取を担当役員としてほくほくフィナンシャルグループグループの中にSX推進部を立ち上げました。</p> <p>SX推進部の中にはGX推進グループというものがあり、自社に対する取組として上場企業としての開示要求に対する対応、リスク管理の高度化、カーボンプレジットの創出があり、地域に対する取組としては省庁・自治体・事業者との連携や再生可能エネルギーの情報収集や導入支援などを行っています。</p> <p>3ページ目をお開き下さい。</p> <p>SX推進部として取り組んでいる四つの大きな柱として、TCFD提言への対応強化、自社の脱炭素化推進、お取引先の脱炭素化支援強化、地域の脱炭素化推進がございます。TCFDとは、全ての企業に対し、気候変動がもたらすリスクやその対応について情報開示を推奨していくという動きです。</p> <p>4ページ目をお開き下さい。</p> <p>まずTCFD提言への対応強化ですが、SX人材を育成するため各種検定試験を受けてもらったり、他部署の職員をインターンシップという形でSX推進部に受け入れたり、サステナビリティトレーニーというOJTなどを実施しております。他にも、様々な企業でこういったニーズがありますよ、といった内容を情報共有するようなことも実施しております。</p> <p>5ページ目をお開き下さい。</p> <p>次に自社の脱炭素化推進についてですが、まず意識改革として、職員同士で脱炭</p>

	<p>素の考え方を根付かせるような取組を行っています。当行の従業員数は 2,000 人を超える規模ですので、コピー枚数を削減するといった細かいことを一人ひとりが実践しております。</p> <p>ハード面では、ほくほくソーラーパークという、PPA を活用した太陽光発電を実施しております。現在稼働しているものは北陸銀行さんが運営しており、地方銀行の中では最大規模となっております。北海道銀行も 2024 年末頃に白糠町での運営を予定しており、CO2 排出量の削減に取り組んでいく次第です。</p> <p>6ページ目をお開き下さい。</p> <p>当行はある程度の店舗数がございますので、それを生かし環境配慮型店舗、ZEB 店舗の推進にも取り組んでおります。上の写真は北陸銀行のものですが、下の写真にありますように、北海道銀行の店舗についても、今年の11月に道内金融機関としては初の ZEB 店舗の運用を開始します。</p> <p>7ページ目をお開き下さい。</p> <p>次にお取引先の脱炭素支援強化ということで、ここではファイナンスの強化についてご説明します。</p> <p>従来の銀行業務としてお金をお貸ししていますが、サステナブル関連融資ということで、環境にやさしいことに取り組んでいるお客様にも融資を行っています。資料の右側に記載がありますがサステナビリティ・リンク・ローンやポジティブ・インパクト・ファイナンスとは別に、ほくほくスリーターゲットという商品を開発し、こちらの基準に合ったお客様については従来よりも低い金利で融資させていただいております。</p> <p>また、個人のお客様についても、ZEH 水準を満たした住宅について、一般の住宅ローンから金利を引き下げるといった取組を行っています。</p> <p>8ページをお開き下さい。</p> <p>コンサルティング支援の強化ということで、取組の一つとして当行は様々な業者さんと繋がりががあるので、それを生かし、企業におけるカーボンプレジットの売買のマッチングについて間接的に協力させていただいております。</p> <p>最後に地域の脱炭素化推進、アライアンスの強化ですが、こちらは様々な取組を行っています。チーム札幌・北海道への参画や地方自治体との連携による取組強化、産学官連携のように皆さんと一緒に取り組んでより良いものを作っていくということで、様々な情報提供を行っています。</p> <p>説明は以上となりますが、ご不明な点等ございましたら個別にご質問いただければと思いますので、よろしく願います。</p>
<p>松野委員</p>	<p>北海道電力ネットワークの松野と申します。よろしくお願いたします。</p> <p>用意した資料ですが、環境に関する部分をピックアップしたものとなっております。全体版やそれ以外の資料につきましては、北海道電力のホームページに「法人 IR」というページがあり、そちらからご覧いただけます。</p> <p>ほくでんグループ全体としての取組ですが、気候変動対策として独自の環境方針を定めています。</p> <p>また、電気をつくる際には多くの材料を投入し、CO2 や廃棄物などを排出しております。持続的な成長をしていくために、これらインプットとアウトプットを適切に管理するとともに、材料について有効活用できないかということで、3Rの推進に取り組んでおります。</p> <p>他にも生物多様性保全ということで、ホオジロが電線に引っかかる、フクロウの止まり木がないといった地域の問題に合わせた環境保全に取り組んでおります。</p> <p>また、発電所などの建物においては、PCB やアスベストの問題がございます。当社の施設についてもおとし創立70周年を迎えましたが、この辺りについてもしっかりと管理しております。</p> <p>ここまでの内容を集約したものが、お手元の資料となります。</p> <p>さて、地球温暖化、カーボンニュートラルについては様々な切り口があると思いますが、我々も実際に様々な取組を行っています。</p> <p>岡崎さんの資料にあります、今年の6月にえべつ環境・SDGs 広場 2024 が開催されました。当社も出展し、SDGs の17項目について短い時間ではありましたが講義をし、延べ 200 名の方にお越しいただきました。</p>

	<p>SDGs についてはもう少し進んだ取組を行いたく、これは江別市さんへのお願いですが、市内の学校、教育の場で是非SDGsの講義を行いたいと思っております。札幌市ではすでに開始しており、今年に入ってから既に2、3校で行っております。</p> <p>SDGs が何に役立つかですが、例えばフードロスやプラスチック削減の話題は、最終的にごみの減量に繋がっていきます。そういった勉強を小学生のうちから行っていきたいと考えております。</p> <p>次に市民レベルでできることですが、江別市内には四つの大学があります。それらの大学で行っているカーボンニュートラルの取組に対してご支援できないかなと考えております。例えば酪農学園大学さんにおいては15年ぐらい前にバイオガス発電をされていましたし、本日も太陽光発電の垂直パネルを見学させていただきました。</p> <p>また、行政レベルでできることですが、江別市さんですと庁舎の建て替えでご苦労されていると思います。</p> <p>先ほど ZEB の話がありましたが、ZEB は光熱費が半分になります。北海道は本州と比べて暖房費が 1.3 倍から 1.5 倍かかるので、暖房費が半分になるのはかなり影響が大きいと考えます。</p> <p>他にも、施策として挙げていたガソリン車、こちらは大学さんなどにも言えることですが、EV 化は補助金を活用して出来るところから導入していくと良いと思います。</p> <p>民間レベルの取組においては、SDGs やカーボンニュートラルの応援、施設見学などを実施しながら江別市全体の機運を盛り上げていけないかと日々考えております。</p> <p>北海道電力は、電気をつくる会社ですが、我々北海道電力ネットワークは、電気の配線を守る会社です。台風や停電時に電力を提供するのも我々の仕事です。地域に根差している我々としては、様々な企業と連携し、地域に対し何か出来ないかと考えております。そこで、子供達に SDGs の授業を行ったり、市民の方々に大学に来てもらい、電力の施設を見学したりしながら、市全体で交流を図っていくと良いのではないかと思います。</p> <p>昨今、ラピダスが非常に大きな勢いを持っていますが、その関連で石狩にデータセンターが作られます。既に千歳には用地がなく、恵庭まで発展しています。江別も遠からずその範囲となるでしょうが、その際には、我々としても支援していければ良いと思います。</p>
<p>干野委員</p>	<p>えべつ協働ねっとわーくの干野と申します。よろしくお願いたします。</p> <p>えべつ協働ねっとわーくは、野幌駅の南口にある市民交流施設ぷらっとを中心に、市民活動センター・あいとして、市民活動団体の支援や広報支援活動をメインとしています。</p> <p>本日は環境に関わる内容を中心にご紹介いたします。</p> <p>資料の1ページ目をご覧ください。</p> <p>「コラボのたね」は、「市民協働によるまちづくり」を掲げる江別市が、市民活動団体の情報提供の場、及び市民の社会貢献活動への参加の機会を広げることを目的として作成されたものです。こちらはポータルサイトがあり、環境保全団体のご紹介しております。団体ごとの詳細ページもあり、活動内容のほか、イベント行う際にはチラシなどのデータをいただき、こちらでもご紹介させていただいております。</p> <p>また、ホームページだけではなく、「コラボのたねカード」という、一団体に一つずつカードを作成しております。市民活動センターでは、資料左下の写真のように団体のカード一覧がご覧になれるようになっており、福祉や環境といったジャンルごとに色分けをしております。市民の方は、自分が気になった団体や参加してみたいと思った団体のカードを持っていくことが出来ます。カードの裏面には団体のホームページやフェイスブック、インスタグラムなどの QR コードもあります。本日は、資料としてえべつ地球温暖化対策地域協議会さんのカードをお持ちしましたので、今後の活動の参考としてください。</p> <p>カードについては、市民活動センター以外にも、ファイルに挟めたものを市民会館や住区会館など市内30か所に配架させていただいており、地域の施設でもそういったものを利用する機会提供しております。</p>

	<p>また、以前は市民活動団体を紹介する資料を冊子として出しておりましたが、それぞれ活動の内容が変わったり新しい団体ができたりする度に冊子ごと交換するのは資源がもったいないということで、変わった部分だけ差し替えができるように変更しました。</p> <p>他にも、活動団体によっては定期的に会報を発行しているところがあります。こちらはホームページでご紹介することもあります。冊子をお預かりし、団体ごとにまとめたものを団体活動情報ファイルとして配架し、情報発信しております。</p> <p>次のページをご覧ください。</p> <p>年に一回、江別市民活動見本市という大々的な催しをしています。</p> <p>資料中段に昨年度のポスター画像がございますが、ステージ発表の他に、自分たちの活動団体の紹介を行うコーナーがございます。</p> <p>また、普段は活動団体から提示していただいた情報をもとに私どもでA1サイズのポスターを作り、館内の廊下や会議室の中に貼っておりますが、イベントの日はフロア内にポスターなど展示したいという団体さんからポスターや直近で開催されるイベントのチラシ、パンフレットなどをお預かりし、同時に配架して訪れた方が様々な情報を一度にご覧いただけるように掲示しております。</p> <p>見本市では他にも、北海道ブックシェアリングさんという団体さんが主催の古書市や、日本リサイクルネットワーク・エベつさんが主催のフリーマーケットも開催しております。フリーマーケットは、普段は野幌駅近辺では開催していませんでしたが、市民活動見本市では駅の北口から南口で開催し、リユースの機会を増やしております。</p> <p>私どもの活動としても一つ、先ほど松野様のお話にもありましたが、子供世代への教育として、江別市から委託を受け、出前環境学校ということで市内の放課後児童会を対象に環境学習を行っております。次のページに実際の進行表がございますので、ご覧ください。</p> <p>今年は水をテーマにしており、まず紙芝居で水がどのようにできるかを説明します。ストーリーの中では、水は大切なので汚さないようにしなければいけないというお話もします。次のページで今年の紙芝居の内容を抜粋しておりますが、親しみやすいキャラクターを使い、直感的に分かりやすくしております。ストーリーはオリジナルのものとなっており、同じようなテーマでも少なくとも前年とは内容が被らないようにしております。</p> <p>次に補足として世界の水事情をパネルで紹介し、世界にはこんなに汚い水でも飲料水にしないといけない人達がいるということなどを理解していただきます。</p> <p>また、お話を聞くだけでは児童に知識として残らないので、参加型ゲームとして水に関するクイズを出題します。</p> <p>最後に学習の振り返りをし、各児童会に賞状を送ります。賞状はフレームに入れて吊り下げられる状態で渡し、児童の目につくようなところに飾ってもらい、キャラクターを見る度にこういう話があったなというのを常時思い出してもらうような工夫しております。</p> <p>出前環境学校で話す内容は、環境問題の初めの一步のところですが、小学生のうちから環境を大事にしなければいけないということ意識し、大きくなってからSDGsなどの詳しい話を聞いたときに、ずっと理解していただければと考えております。</p> <p>最後のページをご覧ください。</p> <p>私どもで発行しているニュースレターですが、私どもの施設は空調設備がありますので、クールシェアスポットとウォームシェアスポットとしての登録を環境課さんに打診し、登録されましたということでご紹介をさせていただいております。</p> <p>また、こちらのニュースレターですが、私どものホームページにバックナンバーがありますので、過去の取組についてもご覧いただければと思います。</p>
<p>安倍委員</p>	<p>えべつ地球温暖化対策地域協議会の安倍でございます。</p> <p>普段は北海道情報大学という、こちらのお隣にある大学にあります。環境系の取組については酪農学園大学さんのように直接的なものはあまりありませんが、SDGsを意識した研究や、IT技術を活用してクリーンな社会を作ることに関しては本学が中心になって進めていくべきと考え、それぞれの研究をもっと地域の中で発揮</p>

	<p>できるようにしていきたいと思っております。</p> <p>私は本協議会では、えべつ地球温暖化対策地域協議会という立場で参加させていただいておりますので、そこでの取組についてお話をしたいと思っております。</p> <p>えべつ協働ねっとわーくさんで素敵なカードを作っていただきましたが、こちらに書いてあるとおりの協議会です。ご説明をさせていただきますと、環境保全や温暖化防止に関心を寄せる団体、企業、個人、そして江別市の環境課さんが協力し、活動している団体です。「地域で元気に温暖化防止」を合言葉に活動しています。具体的には、1991年から開催しているメイン行事のえべつ環境・SDGs 広場の他に、市民の暮らしや事業所に役立つ省エネ講座などを開催しております。</p> <p>会員は随時募集中で、企業や、環境団体の方も参加しておりますが、私は個人として参加しております。色々な方と一緒に何らかの活動が出来ればと思っております。</p> <p>残りの時間で、メイン行事であるえべつ環境・SDGs 広場についてご説明いたします。最初に市役所さんの方からお配りした資料をご覧ください。</p> <p>第34回とありますように本行事は34年続いており、来年も35回目の環境広場を開催する予定です。</p> <p>例年、環境月間の6月に開催しておりましたが、ここ数年はコロナ禍で開催時期がずれた年もありました。今年からは6月に戻して開催し、来年も6月に開催する予定です。</p> <p>チラシの裏面には、環境広場に参加してくださった団体さんの出展内容が書か書かれております。えべつ協働ねっとわーくさんにご協力いただきましたし、北電さんにはエネゴン号や、子供たちに電気を中心としたSDGsのクイズをしていただきました。資料の二枚目以降には、今年環境広場でのスナップ写真がございます。こちらをご覧くださいと環境広場の雰囲気がいさし掴めるかなと思います。</p> <p>また、こちらのチラシとは別に子供用のチラシも作り、市内全ての小学校に配布しております。子供たちには環境のお祭りというような感じで遊びに来てもらい、それぞれの団体さんが自分たちの活動を紹介する中で、子供にもわかっただけのような形で分かりやすく環境についてお話をし、一緒に楽しんで一緒に学び合うことができます。</p> <p>また、様々な団体さんが自分たちの活動を参加者の方々に紹介し、情報提供するだけでなく、団体さん同士が情報交換をしながら勉強する場にもなっております。</p> <p>参加していただいた団体さんの中には、高校生の時に学校の部活として参加し、大人になって、もしくは大学生になってから別の立場で環境団体を立ち上げて再び参加したところもあります。</p> <p>長年開催されている環境行事になりますが、市民の方々がこのイベントをプラットフォームのような形で利用・参加して下さっていることも、喜びの一つでございます。</p> <p>説明は以上ですが、環境広場は来年も行いますので、遊びに来ていただくのももちろんですが、団体さんとしてご参加いただくのも大歓迎でございますので、よろしく願いいたします。</p>
<p>星委員</p>	<p>日本リサイクルネットワーク・えべつの星と申します。よろしく願いいたします。</p> <p>最初に1枚目の資料をご覧ください。こちらは、えべつ・フリーマーケットの報告書となります。</p> <p>日本リサイクルネットワーク・えべつでは、市役所前駐車場でのフリーマーケット開催を中心に、ごみの減量等、環境に関わる活動を行っております。</p> <p>先ほどえべつ協働ねっとわーくの干野さんからご説明がありましたが、去年から野幌駅の北口から南口でもフリーマーケットを開催しております。</p> <p>市役所でのフリーマーケット実施は今年で27年目となり、実施回数としては341回目となります。</p> <p>続きまして、2枚目の資料をご覧ください。こちらは、小学校で実施している買い物ゲームの概要となります。</p> <p>子供たちが毎日の生活の中でごみの減量に興味を持つように、ゲームを通じてごみの減らし方を教えていく事業を江別市内の全小学校で実施しております。本日は私の子供も来ておりますが、一昨年に買い物ゲームを実際に体験しております。</p>

	<p>事業を開始してから今年で21年が経ちましたが、江別市のごみの分別方法やリサイクル方法が変わったり、SDGs という新しい言葉が出てきたりと様々な変化があります。これらの変化についても、今後大人になっていく子供たちに、分かりやすい言葉を選びながら、パネルシアター等の視覚情報を有効に利用してしっかりと伝えていきたいと考えております。</p> <p>また、子供たちに日常生活と環境問題、特にごみ問題について繋がりを築き、問題解決に向けて具体的に行動できる大人になって欲しいと思い、事業に取り組んでおります。</p> <p>スタッフは全部で20名おり、会社員や学生、公務員、子育て中のお母さんで活動しております。</p> <p>以上です。</p>
岡崎委員	<p>北海道地球温暖化防止活動推進員の岡崎と申します。よろしくお願いたします。</p> <p>まず初めに、自己紹介資料と書かれた資料をご覧ください。北海道地球温暖化防止活動推進員は、国の「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づき、2001年5月に北海道で始まった「北海道地球温暖化防止活動推進員制度」により知事から委嘱されます。</p> <p>任期は2年で、私は2期目から推進員を務めております。安倍さんも推進員として活躍されています。</p> <p>活動内容としては、一つ目に地域で開催される地球温暖化対策に関する講座や学習会の講師依頼への対応があります。これは、旅費と謝礼については北海道で負担するので、依頼者は会場と参加者を集めるだけという制度です。</p> <p>二つ目に、それぞれの地域で地球温暖化対策に関する活動があり、先程安倍さんからお話があった環境・SDGs 広場の開催も活動の一つです。</p> <p>私の昨年度の取組としては、まず江別市内の小学校でワットモニター出前授業を5年生4クラス、6年生1クラスで行いました。</p> <p>次にゼロカーボンに関する授業や講座を、道内の小学校、中学校、高等学校で行いました。</p> <p>他にも、北海道主催のゼロカーボンキャンプ教室の中で、クイズ形式の講座実施や、一般市民を対象にした講演会で講師を務めました。</p> <p>地域での活動としては、えべつ環境・SDGs 広場の他に、江別市で毎年実施している、乳幼児の子育て世代を対象とした出前講座があります。こちらは子育てセンターのような場所でお母さんとお子さんが一緒にお話を聞いたり、お子さんは託児して、お母さんが空いた時間でお話を聞いたりする形式で講座を実施しております。</p> <p>それから、私個人で所属している NPO 法人北海道グリーンファンドという団体があります。こちらでは自然エネルギーの推進と、省エネルギーの推進活動を行っております。</p> <p>次に、お配りしたカラーのチラシをご覧ください。こちらは NPO 法人北海道環境カウンセラー協会で作成したものです。協会では自然再生と温暖化対策の普及啓発に取り組んでおり、その一環としてチラシを作成しました。</p> <p>先ほど北電ネットワークさんから、環境に関する市民向け、学校教育の様々な取組を江別市でも実施して欲しいというお話がありましたが、実は江別市では既にしっかりと、市民向けや学校教育向けの取組を実施されています。ホームページにある環境課のページ内「環境学習・イベント新着情報」を見てみると多くの取組があり、見た方は江別市が結構取り組んでいるのだとびっくりされます。しかし、現在なかなかそれが表に出てこない状態となっているので、その辺りはもう少し見えるような形にしていきたいと思っております。</p> <p>また、環境教育の裾野、ネットワークを広げていく取組も更に進んで欲しいと思っております。</p> <p>以上です。ありがとうございました。</p>
吉田会長	<p>ここまで、民間事業者、環境団体等の方にそれぞれの取組をお話いただきました。ありがとうございました。</p> <p>次に、公募市民の後木さん、何か取り組んでいらっしゃるものがありましたら、お願いします。</p>

後木委員	<p>後木です。よろしくお願いいたします。</p> <p>環境に関する取組としては、大学生の頃に開催された地球温暖化防止ポータル会議に刺激を受け、色々取り組んでおりました。具体的には、大学の学園祭でポテトレーというデンプン由来のトレーの使用や、リサイクル活動しておりました。</p> <p>10年ほど前には、ドイツのフライブルクで開催された環境エコツアーに参加し、全国を自転車で回って講演会をしている方と一緒にまちづくりやエネルギーについて学びました。</p> <p>現在は大工をしておりますが、環境のことを考えた資材の利用や、住宅の省エネ性の向上に取り組んでおります。</p> <p>実生活では、コンポストの使用による生ごみのリサイクル、コンポストトイレの利用や、子供が出した便を畑の肥料として再利用しております。</p> <p>他には、自宅で独立型太陽光発電を導入し、停電した際に携帯電話の充電やWi-Fiルータを動かせるぐらいの電力を賄えるようにしております。</p> <p>また、暖房に灯油ストーブと薪ストーブを併用していますが、薪ストーブを使用する際には大工仕事で出る廃材を燃料として使用しています。</p> <p>また、グリーンファンドに貯金の一部として50万円ほど出資しています。出資したお金は能登半島で行われている風力発電や、小水力発電事業に使われます。</p> <p>他にも夏場の暑さ対策として、窓の外側に簾をかけ、家の中に熱を持ち込まないようにしており、今もエアコンを使わずに頑張っております。</p> <p>私は、グリーンピースという環境 NGO 団体のサポートをしておりますが、現在問題となっている地球沸騰化に危機感を覚え、何か取組をしたいと思っていた時に本協議会の案内が新聞等に出ており、今回応募いたしました。よろしくお願いいたします。</p>
吉田会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>次に、公募市民の海保さん、何か取り組んでいらっしゃるがありましたら、お願いします。</p>
海保委員	<p>海保富江と申します、よろしくお願いいたします。</p> <p>私の取組としては、岡崎さんの資料にありました「みんなの取組ベスト6」に記載のある内容をまさにそのまま、ささやかながら実施しております。</p> <p>昨今の気候変動の激化や地球温暖化の加速化のニュースを見る度に、このままではいけないということを実感するようになりました。</p> <p>また、昨年一番下の孫が生まれましたが、この子が70歳、80歳になった時に今と同じような地球に住んでいられるのだろうか、胸が潰れるような思いになりました。</p> <p>自分はこれまで利便性だけを優先し、変えたいという気持ちはあっても変えられないでいたましたが、この現状をもう1歩、半歩でも変えたいと思い、この度勇気を出して、本協議会に応募させていただきました。</p> <p>今日も学びが沢山ありましたので、この事を家族や周りの友人たちに話して、少しでも意識の広がりをもたらすことができたらと思っております。</p> <p>どうぞよろしくお願いいたします。</p>
吉田会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>最後に、行政機関の江別市からお願いします。</p>
村田委員	<p>江別市からは、6点ご案内します。</p> <p>机上配布しましたお手元の市からの資料をご覧ください。</p> <p>一つ目に、「江別市 家庭向け脱炭素化普及促進補助金」という事業で、太陽光パネルと家庭用蓄電池設置への補助事業となります。今年度、初めて実施した事業で、今年6月3日から受付を開始し、7月末で61件の申込みがあり、予算の上限額1,000万円に達したため、わずか2か月で終了となりました。</p> <p>2枚目の資料は、補助金の支給対象者に対して、温暖化対策を自分事のように思っただきたく、補助金の決定通知書と一緒に送っているチラシでございます。このチラシは、7月開催の「えべつ やきもの市」でもエベチユンファイルと一緒に200部配布しております。</p> <p>今回の補助事業は、大変好評で、問い合わせも多くいただいているため、担当課と</p>

	<p>しましては、来年度も継続して実施したいと考えています。</p> <p>二つ目に、クールシェアスポット・ウォームシェアスポットの設置でございます。</p> <p>この夏、新聞の紙面に、「クーリングシェルター」という言葉が多数出てきておりますが、クーリングシェルターは、改正気候変動適応法という法律で定められている施設で、必ず備えるべき最低限の基準が設けられ、北海道のすべての予報区で、暑さ指数35以上の「熱中症特別警戒アラート」が出た際に、開放義務が発生する施設となります。</p> <p>しかし、暑さ指数33以上の「熱中症警戒アラート」でさえ災害級でありまして、そのさらに上の「熱中症特別警戒アラート」が北海道で出るとは現段階では想定できないため、江別市ではクーリングシェルターをまだ設定しておりません。他の自治体では、低いレベルでも法的な位置づけのクーリングシェルターを開放しているようですが、代わりに、江別市では、環境省が推奨している地球温暖化対策の取組の一つである、「3」の一覧にありますクールシェアスポットを登録、設置してネット上で公開しております。</p> <p>なお、裏の2ページ目に、ネット上のシェアマップと、ステッカーの見本を載せてあります。</p> <p>三つ目に、まだ市のホームページ等で公表していないので、あまり公にしないでいただきたいのですが、「江別市脱炭素セミナー 地球温暖化による気候変化とその影響」と題しまして、気象予報士の菅井貴子さんにご講演いただきます。募集開始を公表しましたら、皆様にもぜひご参加いただけると幸いです。</p> <p>四つ目に、市の環境課では、毎年、「えべつ市民環境講座」を実施しており、今年度の開催内容は、資料にあるとおりです。今月28日(水)の第1回目に、当協議会の委員の岡崎さんにご講演をお願いしております。どの講座もまだ若干の空きがありますので、ご参加いただけると幸いです。</p> <p>五つ目に、生涯学習推進協議会主催の「生涯学習リレー講座」が来月から開催されます。こちらも、岡崎さんがご講演されます。裏面の申込み用紙でぜひともお申込みいただけると幸いです。</p> <p>六つ目に、資料として用意していませんが、今年12月上旬に、江別高校の3年生、約250人を対象とした高校生向けの出前講座・脱炭素セミナーを実施いたします。江別高校の体育館で行いますが、委員の皆さまで聴講ご希望の方がいらっしゃいましたら、聴講可能ですので、事務局までご連絡いただきたいと存じます。日程が決まりましたら、皆さまへご案内いたします。吉田先生には、毎年、市職員を対象とした温暖化対策セミナーの講師になっていただいております。引き続き、高校生に対してもどうぞよろしく願いいたします。</p> <p>江別市からは、以上でございます。</p>
吉田会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>以上で、皆さまから取組のご紹介が終わりましたが、付け加えて説明したいなど、ありませんか。</p>
委員一同	(なし)
吉田会長	<p>ここで本来ですと、ご質問やご意見、色々な議論等を実施したいのですが、大幅に時間を超過しておりますので、次回に実施させていただきたいと思っております。ご了承ください。</p> <p>それでは、次に、議事(3)の「その他」ですが、事務局から何かありますか。</p>
丹羽主査	<p>次回の協議会ですが、秋から冬頃にかけての開催を予定しています。</p> <p>詳細は改めて事務局からご連絡をさせていただきますので、ご多忙のことと存じますが、ご参加のほどよろしく願いいたします。</p>
吉田会長	ただいまの事務局の説明に対して、ご質問やご意見などありますか。
委員一同	(なし)
吉田会長	<p>なければ、以上で本日の案件はすべて終了いたしました。長時間にわたり、ありがとうございます。</p> <p>それでは、進行を事務局にお返しいたします。</p>

丹羽主査	吉田教授、ありがとうございました。 それでは、以上をもちまして、第1回江別市地球温暖化対策実行計画推進協議会を閉会いたします。 本日は、長時間にわたりご参加いただきまして、誠にありがとうございました。
------	--